

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

# 55.10~57.10を闘える反合闘争路線の確立を

## 「貨物安定宣言」を廃棄し、せまりくる大合理化攻撃に対決しよう!

第三回地本臨時大会確認スローガン

五三・一〇貨物合理化反対闘争は敗北した。この敗北の最大の要因は「貨物安定宣言」による路線的誤まりである。現に進行している武操型貨物合理化の実態を分析し、敵の狙いを全組合員に明らかにし、その中で現実提起されている一つ一つの合理化攻撃を総体の中で正しく位置づけながら、まずもって生産点の闘いを基礎に、総評、交運レベルはもとより、地域闘争さらには全国的な政治闘争へ拡大してゆく方向以外に五五・一〇(五七・一〇)へ向けた闘いに勝利する道はない。

### 「生産点の怒りと闘う決意を 結集できない路線の誤り」

「貨物安定宣言」なる方針は、第一に、権力・資本の攻撃を受ける当該者を闘いの列から後退させるといふところに決定的誤りがある。たしかに、われわれは助士廃止反対闘争・検査合理化反対闘争などを職種をこえて闘ってきた。しかし、これらの闘いは当該労働者の決起を前提とした「全体の闘い」であった。

今日の体制危機の中であって、すさまじい政治反動に屈し、ほとんどの労働組合が「雇用か賃上げか」「雇用か合理化か」という資本のどしどし喝になす術もなく、反合闘争はもちろん、賃上げ闘争さえ闘えない状況がある。この厳しい状況の中でわれわれに求められているものは、「冬の時代」というタコソポへとじこもることではなく、その状況をいかに突破してゆくのかということである。そのために労働組合が先ず依拠すべき原点は、攻撃にさらされている労働者の怒りであり、自らの決起である。

あらゆる戦術を駆使して闘うべきときにあらかじめ、闘う前からあれこれの戦術はとらないなどと宣言する愚はもちろん、職場生産点における労働者の怒り、闘う決意をくみあげ、結果する方向性を持たない方針では否定すべき現実を突破する展望を切り拓けないことは当然である。

### 「労使正常化路線への屈服」

第二に、「争議行為で貨物輸送に不安定要素がある」という当局の論理に屈服し、自らは安定宣言を行い、当局の企業努力によって削減列車の復活を要求する「職場を確保する」という思想は、まさに労使正常化路線への屈服であり、闘う前からの思想的武装解除、反合闘争の放棄であり、闘う組織の解体につながるという問題点を指摘しなければならない。この「安定宣言」が全国大会での「戦術的活用」という確認を無視した一部反動分子によって、五五・一〇まで

継続させられ、いまや戦術の域を越えて動労の反合闘争路線にまで押しあげられてきている。全国大会方針の歪曲とセクト的引きまわしがここでも行われている。

### 「三里塚・ジェット闘争を圧殺し、反戦闘争を放棄するもの」

この貨物安定宣言は、第三に、三里塚・ジェット燃料輸送に積局的に協力する意味を持ち、第四に、一〇・二一反戦闘争などに際しては、米軍や自衛隊の軍需物資輸送を前提的に保障する役割をも果たしているのである。

### 「武操合理化の現実を直視しない 「削減・合理化」論の誤り」

第五に、われわれは一部諸君が「アヤフヤな」経済学をもつて「合理化と過剰資本の処理」貨物削減・合理化論」を強弁したことのおやまりについて指摘しなければならない。運輸大臣の諮問機関である運輸政策審議会が一月二四日に出した報告書は、国鉄営業線の約半分近くに当る九千キロをバス輸送化その他で合理化し、予算定員を二七万人に切り詰め、第三セクター等による国鉄分割II解体をすら資体の側から行おうとする内容を含んでいる。

「一〇年間で二〇万人が退職する」この時期を「絶好のチャンス」としてかけられてくるこの合理化は、日本全体が高齢者社会化するとき日本全体の産業構造の中で人的資源の全体的配分―若年労働者の自衛隊増強への振り向け―徴兵化への道をも展望したそれを支配の側から勘案した組合交通政策として、産業構造の変質化に相応する国内物流機構の再編と、その中で想定される国鉄貨物輸送の役割を支配階級の全体重をかけた体制的合理化としての武操型合理化によって果そうとするものである。

ここにおいて、武操型合理化の本質を見ようとしないうちやよげな経済学をもつてする「削減・合理化」論の誤りは明確である。

五五・一〇、五七・一〇を闘える反合闘争路線の構築は今こそ急務である。